

建設業の若手7割以上 「入社してよかった」と実感

ワールドコーポレーション調べ

「きつい、汚い、危険」という「3K」のイメージが根強い建設業界。しかし、実際に働く若手社員たちは、いまの建設業をどのように捉えているのか。建設業界の技術者派遣を手掛けるワールドコーポレーション（東京都千代田区）が、15～39歳の若手社員600人を対象に行った調査から、その実態が明らかになった。

調査によると、入社前の建設業界に対して最も不安を感じていたのは、

「体力勝負で大変そう」（44・8％）、「上下関係が厳しそう」（28・2％）、「休みが取れなさそう」（27・3％）だった。しかし、実際に働いてみると、72・5％の若者が「入社してよかった」と回答。その理由として、「手に職がつき、将来の自信につながる」（22％）が最も多く、次いで「思っていたよりも『頭を使う』仕事で面白い」（21％）、「成果が形に残ることにやりがいを感じる」（17％）が挙がった。

この結果は、建設業が単なる肉体労働ではなく、知的な面白さや達成感を得られる仕事であることを示唆しているようだ。また、「人間関係が良く、働きやすい」（16・7％）という声もあり、従来の厳しい職場イメージとのギャップもあるようだ。

日々の業務を通じて、

「若手たちはどのような成長を実感しているか」の問いには、75・5％が「成長できた」と回答した。具体的な成長場面としては、新しい知識や技術の習得だけでなく、「相手に合わせて言い方を変える意識が付いた」（19・5％）、「自分の考えを簡潔に説明できるようになった」（18・7％）といった、コミュニケーション能力の向上を挙げる声が多くある。

さらに、若手社員が職場に求めていることで、最も多かった要望は「分からないことをすぐに先輩や上司に聞ける環境」（32・8％）で、次に「悩み事を相談できるフオーロー体制」（32・8％）だった。心理的な安全や成長機会への期待が強いことが分かる。育成環境の整備が、若手の定着と活躍を左右する重要な要素であることを示唆しているようだ。